

日本人の**2人に1人**ががんにかかり  
**3人に1人**ががんで亡くなっています

# 元気な時でも受けよう がん検診

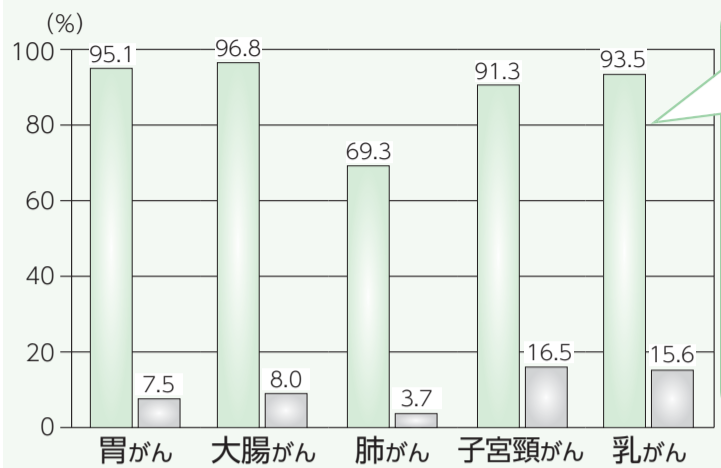
早期発見の  
ために

がんは日本人の死亡原因の第1位となっており、新宿区でも毎年700人を超える方が、がんが原因で亡くなっています。がんは自覚症状がなくても進行している場合があります。健康な時にも定期的ながん検診を受けることで早期に発見し、適切な治療につなげることが大切です(右記参照)。「症状が出たら病院に行こう」「面倒くさい」とがん検診を受けずにいると、取り返しのつかないことになりかねません。自分のため、家族のために、がん検診を受けましょう。

今回は、年齢が若くても油断できない女性特有のがんの特徴も併せてお知らせします。  
【問合せ】健康づくり課健診係(第2分庁舎分館1階) ☎(5273)4207・☎(5273)3930へ。

## がんの診断後10年の生存率

■ 早期がん(「ステージI」で発見され、がんが発生部位にとどまっている)  
■ 進行がん(「ステージIV」で発見され、がんが周りの臓器等に広がっている)



早期発見・早期治療で  
生存率がグンと上がる

【出典】国立がん研究センター2016年1月公表データより

「若いから安心」とは限りません

## 女性に特有のがん 乳がん・子宮がん

通常は加齢とともにがんにかかる人・死亡する人が増加しますが、女性に特有のがんである「子宮がん」と「乳がん」は若い方でも注意が必要です。

### 子宮がん検診は 20歳から受診できます

子宮がんは20歳代～30歳代の比較的若い女性に増加が見られます。子宮がんは、早期に発見できれば、治療負担も軽く、その後妊娠・出産することも可能です。

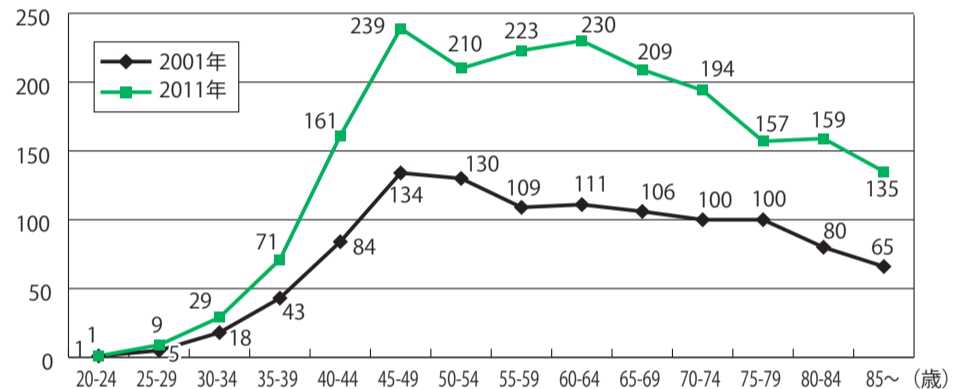


## 乳がん発症のピークは40歳代から50歳代

乳がんは40歳代～50歳代の女性のがんによる死亡原因の第1位です。仕事・子育て・介護等で忙しく、自分のことが後回しになりがちですが、自分自身ががんになったときのことを考えて、定期的に乳がん検診を受けましょう。



(人口10万対) <乳がんになった人の割合(全国・女性)>



【出典】国立がん研究センターがん対策情報センター

## 区が実施しているがん検診

区では、区民の皆さんがいつまでも健康でいられるように、以下のがん検診を実施しています。区のがん検診は、区の補助により実際に掛かる費用の10分の1程度の負担で受診できます。

### 乳がん検診

【対象】40歳以上で偶数年齢の女性(★)  
【検診内容】問診、視診、触診、マンモグラフィ  
【費用】800円

★奇数年齢で27年度に検診を受けていない方も受診できます。

### 子宮がん検診

【対象】20歳以上で偶数年齢の女性(★)  
【検診内容】問診、視診、内診、細胞診  
【費用】頸部のみは900円、頸部と体部は2,000円

### 死亡者数第1位

#### 肺がん検診

【対象】40歳以上  
【検診内容】問診、胸部X線撮影(正面と側面の2方向)、喀痰細胞診  
【費用】X線のみは900円、X線と喀痰細胞診は1,200円

### 死亡者数第2位

#### 大腸がん検診

【対象】35歳以上  
【検診内容】問診、検便  
【費用】600円(胃がん検診と同時に受診する方は2,400円)

### 死亡者数第3位

#### 胃がん検診

【対象】35歳以上  
【検診内容】問診、X線撮影  
【費用】1,900円(大腸がん検診と同時に受診する方は2,400円)

#### 前立腺がん検診

【対象】50歳以上の男性  
★区の健康診査を受診する方は、健康診査と同時に実施します。  
【検診内容】問診、採血  
【費用】200円

受診期間

平成29年3月31日(金)まで

受診場所

区の指定医療機関

※「健康診査・がん検診のご案内」に医療機関の一覧を掲載しているほか、新宿区ホームページでもご案内しています。

## がん検診受診の流れ

### 受診には区のがん検診票が必要です

検診票をお持ちでない方は、電話で健康づくり課健診係へ請求してください。「健康診査・がん検診のご案内」とともに郵送します。各保健センターやインターネットの電子申請(新宿区ホームページからリンク、右記二次元コード参照)でも申し込めます。



二次元コード

### 区指定の医療機関を受診しましょう

検診票をお持ちの上、受けたい検診を実施している医療機関で受診してください(申込方法や検診の空き状況等は医療機関にお問い合わせください)。

費用は受診時に支払います(特別区民税非課税世帯の方は受診前に健康づくり課・各保健センターの窓口で手続きをすることで、費用が免除されます)。

### 後日、医師から受診結果の説明を受けましょう

気になる所見がある場合は、医師の指示に従い、精密検査を受けましょう。異常なしの場合でも、定期的に検診を受けましょう。

※今年度お送りしている「健康診査・がん検診のご案内」5ページ「がん検診」大腸がんの検診内容に誤りがありました。お詫びして訂正します。  
【誤】バリウムによるレントゲン撮影 ⇒ 【正】便潜血検査